

# 紙ふうせん

KAMIFUSEN No.72

成田市立図書館だより 第72号 2012年（平成24年）3月1日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646  
FAX 0476-27-4641

<http://www.library.narita.chiba.jp>

## 図書館講座特集号



平成23年度 科学遊び講座より



市史講座

2010.11.27

演題

『房総の村と社会、古代から中世へ』  
—考古学から見た古代末期から中世の成田—

講師

国学院大学神道文化学部教授

笹生 衛 氏

22年度の市史講座は、国学院大学の笹生衛先生を講師に迎え、お話をいただきました。笹生先生は現在、大学の神道文化学部教授として教鞭をとられ、専門は日本考古学、日本宗教史です。主に千葉県及び東国の発掘調査で得られた、さまざまな出土遺物や文献資料をもとに古墳時代、奈良・平安時代から中世にかけての仏教信仰のあり方を研究されています。また、村落の景観の分析や復元を意欲的に試み、県内外の歴史シンポジウムなどで活躍されています。

講演は、古代から中世の集落の特徴・移り変わる要因や過程等を、本講座で初めて使用したパワーポイント（講演の要旨、図や資料をスクリーンに映し出すもの）で解説され、参加者に非常に理解されやすいものになりました。

まず、伝統的な集落は共通の祖先をもつ「祖（おや）」の信仰によって、5世紀以降、集落と古墳群というセットで維持されていたこと。そして、8世紀から9世紀になると、集落の中に浸透していった仏教の影響を受けて個人単位での信仰に変化し、集落が10世紀以降、解体、分散の方向に向かうこと。市内の台方下平遺跡（現はなのき台）の集落の変遷と公津原古墳群に、

その関係が推定できるということをお話しいただきました。

10、11世紀頃になると自然環境の変化により集落の立地が変わり、香取神宮周辺の小野川上流域で山林の開発が行われ集落が成立します。確認された文書から中世の大禰宜、大中臣氏の所領として成立していることがわかります。成田市内でも文書の資料から、根木名川の上流域には、千葉氏の一族と思われる平清胤の所領になっていたことが推測されるとのことです。その後、12、13世紀、伊勢神宮や熊野社領がどんどん房総半島の中に形成され、伝統的な「祖」の信仰とは異なる熊野の神社に代表されるような新たな信仰が導入され、寺社を鎮守とする集落が形成されるなど、集落や墓地の立地、自然環境の変化、そして宗教史も含めた総合的な見方を試みる大変スケールの大きいお話を伺うことができました。

講演終了後、参加者から多くの質問があり、笹生先生より一つ一つ丁寧にお答えをいただき、大変有意義な講座となりました。なお、本講座の講演録は『成田市史研究』36号に掲載予定です。

# 科学遊び 講座

2011.7.22



## テーマ

## 『岩石・鉱物・結晶ってなあに? ~ミニミニ標本をつくろう~』

講師 科学読物研究会 坂口美佳子 氏

今年度の科学遊び講座は、「岩石・鉱物・結晶」をテーマに、実験と観察を通して、そのつくりや性質を学びました。この講座は毎年盛況なため、今年度は午前・午後の2回行い、72名の子どもたちが参加しました。

はじめに、みんなで知っている岩石や鉱物、結晶の名前を出しあいました。宝石名や化石、溶岩、隕石など様々な回答が上がるたびに、講師の坂口先生が実物の岩石や鉱物・結晶を紹介され、性質や特徴を教わりました。また、岩石

の壁かいという性質を試すため、方解石を割ったり、雲母をまち針で剥がしたりしました。なかには、雲母をナイロンのようになるまで薄く剥がすことに成功した人もいました。さらに、岩石に含まれる成分で炎の色を変える実験や、石灰石に酸をかけたときの反応の観察を行いました。緑や赤の炎に驚きの声が上がりました。

最後に、9種類の岩石・鉱物・結晶を集めたミニミニ標本を作りました。夏のひと時の記念となったのではないのでしょうか。

### ★講座の内容の参考になる本★

『岩石と宝石の大図鑑』ロナルド・ルイス・ポネヴィッツ／著 誠文堂新光社

『鉱物・岩石・化石(ニューワイド学研の図鑑)』学習研究社

『こども鉱物図鑑』八川シズエ／著 中央アート出版社

『よくわかる岩石・鉱物図鑑』円城寺守／監修 実業之日本社

『鉱物 地底からのたより』塚本治弘／著 あかね書房

『岩石と鉱物 読む宝石!』ダン・グリーン／文 玉川大学出版部

『鉱物・岩石の世界』青木正博／著 誠文堂新光社

『けっしょうづくり』牧衷／構成・文 偕成社

『川原の石ころ図鑑』渡辺一夫／著 ポプラ社

『岩石・鉱物』木下亀城、小川留太郎／著 保育社

『土と石のじっけん室』地学団体研究会『シリーズ・自然だいすき』編集委員会／編 大月書店

『固体=結晶の世界—ミョウバンからゼオライトまで—』板倉聖宣、山田正男／著 仮説社

## 〈新刊案内〉

# 『成田の地名と歴史 一大字別地域の事典』

市立図書館では、平成18年3月の合併により拡大した市域のさまざまな歴史を、地域の歩み・大字の歩み・地域の事典・碑文の4項目と巻末資料から構成される『成田の地名と歴史 一大字別地域の事典』を刊行しました。本書の概要は次のとおりです。



### ◇地域の歩み

本書の導入部分にあたり、合併後の成田、時代別の成田及び旧町村ごとの歴史について写真・図・資料等を多く使用し、見開き2ページで構成されています。

### ◇大字の歩み

各大字の位置、地図、人口・世帯の推移、大字の名称の変遷などのデータと、地名の初出や由来、歴史の概要をまとめました。原則1大字1ページで構成しています。

### ◇地域の事典

原始古代から現代に至る歴史上の人物、産業・社会、教育、遺跡・民俗、施設などのさまざまな分野の中から約750項目を選び、50音順に配列した成田歴史事典です。

### ◇碑文

市内各地にある45カ所の記念碑・顕彰碑・文学碑などを紹介しています。

### ◇巻末資料

歴代市町村長一覧、指定文化財一覧、掲載項目一覧、参考文献一覧などを掲載し索引としても利用できます。

## 図書館・市役所行政資料室で 頒布しています

- ◆規格 A4版、478ページ
- ◆頒布価格 2,500円
- ◆頒布場所 成田市立図書館2階参考資料室  
市役所1階行政資料室

## 編集後記

「成田山新勝寺の門前町の歴史を調べたい」、「成田ニュータウンができる前の地形が知りたい」、「成田おどり」という歌の歌詞は?、「成田市の路線価図はあるか」、「昔、駅前にあった映画館について知りたい」などなど。図書館2階の参考資料室の窓口には成田についてのさまざまな問い合わせが寄せられています。この部屋には上で紹介した『成田の地名と歴史』をはじめ、成田市や印旛地域、千葉県に関しての多くの地域資料があります。職員が皆さんの知りたいことをを見つけるお手伝いをしています。成田について分からないことがあったら、まずは図書館2階へどうぞ。

成田市立図書館だより No. 72  
発行 成田市  
編集 成田市立図書館  
〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3  
☎0476-27-4646  
発行日 2012.3.1  
登録番号 成教図11-044



リサイクル適性 (A)  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。